

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年 5月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	2272300506
法人名	医療法人社団 道仁会
事業所名	グループホーム ひので
所在地 (電話番号)	静岡県富士市日乃出町 165-3 0545-53-1100
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年01月16日(水)

【情報提供票より】(平成 19 年 12 月 20 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13 年 07 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 5.0 人	

(2)建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建て	1 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(平成19年 12 月 20 日現在)

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 77.0 歳	最低 65 歳	最高 84 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	富士第一クリニック・望星第一クリニック・片岡歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、人工透析の方・そうでない方が認知症になっても自分らしく、自分の地域で生活できるようにと立ち上げられたものである。現在人工透析の方が6名入居されており、特に「慢性腎不全」という病気に対して、医療面においては、道路真向かいの協力医療機関(富士第一クリニック)の全面的なサポート体制を整え、食事療法面では管理栄養士の指導の下に、安心して生活していただけるよう努力している。また、地域密着型サービスの事業所として、地域住民の皆さんの役に立ちたいという想いで、各種予防教室(転倒予防、感染症予防、認知症理解等)を展開中である。非常に特徴のあるホームとして、真に必要な希望者に対し、地域を限定せず全国的な受入ができるような行政の柔軟さも求められる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価の結果を活かし、全職員により評価内容を確認して受け止め、各自が改善に取り組み、運営の向上へとつなげている。指摘項目に対し、普通救命講習会・刃物の取り扱い等全ての項目について改善し、実施へとつなげていた。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票作成においては、全職員により評価内容を確認し、各自が得意分野に取り組むことにより、意義を理解し評価内容をうけとめ、改善する努力をしていた。また、外部評価項目にあわせたホーム独自の「認知症介護チェック表」を作成し、活用していた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	おむね二ヶ月に一回開催し、その際現状報告、意見交換をしている。出された意見については、スタッフ会議にて話し合い、以後のサービス向上へとつなげている。グループホームが地域密着型サービスに位置づけられてからは、特に市町村担当者とは連携を密にとり、意思疎通を図り交流を深めている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談窓口は重要事項説明書に明示され、家族との相談は常におこなっている。月に一度は家族へのお便りを送付し、ホームでの生活状況の報告をしている。日常の中において意見不満苦情が寄せられた場合には、利用者からの話を十分に聴き、理解納得を得られるように努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の行事(夏祭り、どんと焼き、草刈等)へ入居者とともに参加している。敬老会等は、参加への誘いがあればできる限り住み慣れた地域での参加を支援している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人工透析が必要な方でも、地域に密着し自立した生活が送れるよう、法人・ホームの理念として謳い、日夜その実現に努力しているが、運営規程・契約書・重要事項説明書には、その記載が見られなかった。	○	家庭的な環境とともに、「地域住民との交流の下に」を明確に謳うことを検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	設立当初にみんなで作り上げた理念を、スタッフ会議・日常業務の中で何時も話し合い、共有化してその実践に向け、絶えず取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の夏祭り・どんど焼・草刈等の行事に参加し、地域の人々との交流支援に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価結果に対する改善・今年度の自己評価票の作成への取り組みは、職員全員で行い、評価の意義を理解し、改善に取り組む姿勢が窺われた。特に外部評価項目にあわせたホーム独自の「認知症介護チェック表」を作成し、活用していた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者やその家族も参加し、概ね2ヶ月に1回開催し、現状報告・意見交換等を行っている。出された意見についてはスタッフ会議で話し合い、ホームの運営・サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームが地域密着型になったことを深く理解し、市町村担当者とは連携を密にとり、意思疎通を図り交流を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者一人ひとりの生活状況・金銭管理状況等をこまめに報告し、その確認もしている。職員の異動については、家族会、運営推進会議等において報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記し、苦情・相談があれば、担当者・管理者・関係部署等の夫々の立場で丁寧に対処し、説明・報告・記録がなされ、ホームの運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員の支援が受けられるよう、職員の異動や離職がないように最大限の努力をしており、基本的には異動はない。やむを得ず異動の場合も、管理者や他の職員により、利用者の不安や介護低下をきたさないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに応じ、施設内研修はスタッフ会議等、日常業務のなかでその都度の指導をしている。外部研修についても、管理者からの要請・本人の希望により、適切に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月毎に富士市社会福祉協議会グループホーム部会が行われ、市内14施設の相互交換研修等を通じて交流をもち、また、静岡県宅老所・グループホーム連絡協議会へ入会し、実践発表や事例検討会へもできる限り参加し、ホームの質の向上へと繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が自分らしい暮らしが選べるよう、施設の見学や短期利用ができ、入居後の医療面や生活面の不安軽減に努めている。また、入居者や家族からの意向や暮らしの情報は生活の場で面接を行なうなど、入居者に対し理解を深めようとする職員の姿勢が感じられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人工透析の治療を受けられる方とそうでない方との間に、お互いの立場を思いやる気持ちが感じられ、支えあう関係を築いていた。職員は入居者の得意とする場を提供するとともに、人生の先輩として入居者から学ぶことを経験もされていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	治療を受けていても、その人らしい生活を大切に思う支援が感じられる。入居者の思いや意向を実現するのに関係者との協議が必要な場合はサービスプランに入れ、家族に報告し了解を得て買い物や日常的外出や特別な外出等の支援が行なわれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の希望等や本人の生き立ち・暮らしの状況を具体的に把握し、職員の意見を反映した介護計画が作成されている。日々の連絡事項は、会話形式で送りノート・介護記録に記録され、定期的なケース会議・スタッフ会議等で入居者の状況を検討し、必要に応じてカンファレンスが行なわれている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎に行なわれている。職員はケース記録に入居者の意向や状況を会話形式で記録し、本人の日々の状況を継続的に把握するよう努め、ケース会議・スタッフ会議で検討し、介護計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	「望星第一グループ」富士第一クリニックによる透析治療の協力と連携が行なわれている。また、短期利用が活用でき、入居者・家族の状況や要望に応じた支援も行なわれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慢性腎不全の治療を引き続けて受ける支援は、入居者や家族の了解を得て医療機関との情報交換を行い、了解を得て行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に関わる指針について説明し、同意書を家族から得られている。終末期の支援は入居者・家族の意向を尊重し、関係職員と担当者会議にて方向性を検討し行なわれている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて職員に周知徹底されている。入居者からの個別の相談では本人と話し易い関係の職員が対応し、利用者が安心できる支援を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の生活リズムは、人工透析と食事時間を基本とした流れになっている。入居者の希望を尊重するよう配慮するが、協議が必要な場合は話し合いで個別のスケジュールに配慮するよう行なわれている。自己選択の環境と自立への支援に配慮されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にとって食事は健康管理としても重要であるが、好みを取り入れた献立の提供に努めている。味付けや盛り付けに工夫され、入居者も食事を楽しく摂られている。食事の準備や片付けを得意とする入居者や、献立を記入する方など役割分担されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	人工透析を受ける入居者は、医師の指示によって計画されているが、受けない入居者は毎日の入浴支援が行なわれている。基本的に希望やタイミングに対応した時間帯や好みのお風呂用品を使用するなど、個々に応じている。		
の					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	美術館や自分の郷里めぐりなど気晴らしの支援は、入居者のサービスプランに検討し計画されている。生活歴を活かした役割や、ボランティアの協力で絵画教室に参加するなどの動機付けになるような支援も行なわれている。家族が訪問し易いよう配慮されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の外出支援については、希望に添うよう職員は対応している。近隣の公園など体調を見ながら、気分転換と健康管理を兼ねた支援が行なわれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	屋間の施錠は行なわれていない。入居者の外出時の付き添い、見守りで入居者の行動に合わせた対応が行なわれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年1回ホーム独自の計画で、職員・入居者の避難誘導が行なわれている。富士第1クリニックとは、災害時の透析の対応についても検討されている。町内会より避難場所の協力を依頼されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	富士第一クリニックの管理栄養士により献立が作成され、管理されている。個々に応じた栄養・水分量は健康観察記録に記録されている。入居者の状態によって喫食量にも変化があるため、出来るだけ負担にならないよう配慮した支援が行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外観からの印象とは対照的に、室内は居心地の良い家庭的な雰囲気が感じられた。行事を楽しむ写真や、カルタにしたお誕生日などが幼稚にならないよう職員が工夫し、掲示されている。居間は日当たりが良く、利用者は食後は寛ぎながらゆったりされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好みの物を職員と相談しながら飾られたり、愛読書を持ち込まれるなど、居室はその人らしい暮らしが感じられた。室内は入居者にとって落ち着いた環境であることが居心地の良さとして理解し、日用品等の配置も本人の好みに応じるよう対応している。		